

## 第1回高知県社会教育委員会 議事概要

日時：令和7年10月24日（金）10：00～12：00

場所：塩見記念青少年プラザ3階会議室

出席委員：齊藤雅洋、久寿久美子、岩井拓史、徳増千里、眞鍋大輔、森岡千晴、  
吉田友一、佐竹真紀、松田弥花

### 1 開会（10:00～10:10）

#### 【事務局から説明】

委員長、副委員長の選出（委員の互選により決定）

委員長：齊藤 雅洋 委員

副委員長：久寿 久美子 委員

岩井 拓史 委員

#### 【委員長挨拶】

会期は替わったが、今期も委員長を務めることとなった。また2年間協力をお願いする。また、本日の議事は「これからの社会教育と若者世代【提言】案」について、最終確認を行うこと。これまでの7回の検討内容が漏れなく反映されているかと思うが、この提言書の内容を確認し、できれば本日で確定といった方向に進めていきたい。

### 2 議事（10:10～11:55）

<はじめに>

#### 【事務局から説明】

（資料3参照）

（委員長）

・「はじめに」の部分に関して、質問や意見はないか。

（各委員）

・意見なし

<第1章 高知県の若者の育つ環境>

#### 【事務局から説明】

（資料3参照）

（委員）

※途中退室のため、先に意見等を確認

・修正点等なし

・この提言を今後どのように広げていくかが重要であり、時間があれば、その辺も含めて議論していただきたい。

（委員長）

・「2 家庭の状況」について、引用元の中央教育審議会「これからの家庭教育の在り方」の発行年月を追記してほしい。

・「3 地域の現状」について、いつ時点の高知県の人口か追記してほしい。

(委員)

・『いじめはどの子どもにも起こり得る』という共通認識のもと」という文章が引っかかる。誰もがいじめをするという意味にとれてしまうので、言い換えが必要。

・「2 家庭の状況」では中教審の指摘を記載しているが、高知県はどのような傾向であるかも追記したらどうか。

(事務局)

・人権教育・児童生徒課の報告書から抜き出した表現だが、人権課に確認して言葉を変更する。

(委員)

・「見られ」で止める等、「たり」になっている部分を修正した方がいい。

・若者の育つ環境について、子どもになぜゲームばかりするのか以前質問した際、校庭が使えないなど放課後に子どもが遊べる場がないからという回答があった。家庭や地域だけでなく、学校にも課題があるということを加えた方がいいのではないか。

(委員)

・各市町村や学校経営によって状況は異なるが、現在も校庭で子どもたちは遊んでおり、遊ぶ場も整備している。スポーツ少年等がグラウンドを使うこともあるだろうが、規制を貼っているため、環境としてはあまり以前と変わっていないのではないかと考える。

・川等での遊びの制限については、おそらく安全面で子どもだけで遊びに行くことを規制していることを言っているのではないかと思う。

(委員)

・環境として変わっていないのであれば、学校における子どもの遊び場が減っているという点は追記しなくていい。

(委員長)

・子どもの遊ぶ空間と仲間と時間の3つの間がないとよく言われるので、「1 子どもたちの生活」に付け足していいのかもしれない。

(委員)

・全国の状況について記した「2 家庭の状況」と「3 地域の状況」については、地方でも都会でも共通するものがあると思うので、その観点からも書き加えてみてはどうか。

(委員)

・である調とですます調が混在している部分の修正と、中教審の引用部分がどこかの明記が必要。

<第2章 「これからの社会教育と若者世代」に向けた委員からの事例報告>

【事務局から説明】

(資料3参照)

(委員)

・「地域活性化の視点から」の〈多様な学びの機会の提供〉の文末の文章を修正し、「この考え方は、若者が自分の興味や関心について学び、成長する機会を提供するのではないかと考えます」に変更してほしい。

(委員)

・「市町村教育委員会の視点から」の〈地域でどのような若者を育てていくのか〉の文末の文章を修正し、「地域の行事に若者が主体性を持って参加し次世代につなげていくことが、地域コミュニティ全体の活性化につながるものと考えます」に変更してほしい。

<第3章 若者の地域参画をつくる社会教育振興のあり方 1 若者が社会教育に関わるために（取組の方向性）>

【事務局から説明】

（資料3参照）

(委員)

・「(1) 教育の場を地域全体で支える」の4行目の「大人世代になったときに」を「大人になったとき」に修正したらどうか。

(委員)

・文章中で、「通して」と「通じて」が入っている箇所を一元化したほうがいい。

(委員)

・「(5) 若者の活動を受け入れる地域や大人の存在」の誤字修正（「存在がが」）。

(委員)

・「(5) 若者の活動を受け入れる地域や大人の存在」の表現については、項目が「取組の方向性」であることから、例えば「地域や大人とのネットワーク」や、「大人との協働」のような表現にしてはどうか。

(委員)

・「地域や大人との協働」はどうか。

(委員)

・「地域や大人」という表現については、当館の場合「人や地域」と表現することが多い。

(委員)

・地域だと市町村の意味合いが強くなるので、コミュニティという表現はどうか。

(委員)

・「若者の活動を受け入れる人や地域との協働」または「若者の活動を受け入れる人やコミュニティとの協働」はどうか。

(委員長)

・各委員からの意見を総括すると「若者の活動を受け入れる人や地域との協働」でどうか。

(各委員)

・賛同

(委員)

・「(2) 本県ならではの教育環境を生かす」について、コミュニティが小規模であることや地域との関係が近いことの長所は、子どもでも見渡せる範囲の中に、地域の特性や地域課題があり、把握しやすく、その上で考えて行動しやすいことにある。

・表現を修正し、「本県の中山間地域の多くの学校では、児童生徒数が少なく、コミュニティが小規模であることや地域との関係が近いことから、地域とのコミュニケーションがとりやすく、子どもが地域の特性や課題を把握し、考え、行動しやすいといった土壌があります」に変更してはどうか。

(委員長)

・「子ども一人一人に目が届きやすく」を削除し、「地域との関係が近いことから、地域とのコミュニケーションがとりやすく、行動を起こしやすい」ということか。

(委員)

・そうです。フィールドがコンパクトだからこそ、子どもが課題を見つけやすく、スピード感をもって動きやすい環境があるということ。

・文章の入れ替えを行い、「高知県の地域性としては、だれに対しても寛容で、他者を受け入れる風土があると言われていています」を文頭にし、「また都市部の学校の特徴としては」とつなげ、最後に、「本県の中山間地域の多くの学校では」の順番に再構成してはどうか。

・「中山間地域の多くの学校では」の文章の中に、「地域とのコミュニケーションがとりやすく、地域課題解決への行動を起こしやすい、人が取り組みやすい」等の文章を加える。

(各委員)

・賛同

(委員)

・2段落目の「こうした地域の長所を生かし、地域学校協働活動をはじめとした地域と連携・協働した学びに取り組みやすい環境にあると考えられます」について、「地域学校協働活動をはじめとした」を入れると、今現在行われている地域学校協働活動がこの文章に記されているレベルに全て到達していると誤解を与えかねない。地域学校協働活動も含めてこれからの方向性を記す文章であるため、イメージを固定しないためにも「地域学校協働活動をはじめとした」は削除した方がいいのではないか。

(委員)

・「地域学校協働活動をはじめ」で切り、「地域と連携・協働した学び」と続けてはどうか。

(委員)

・「取り組みやすい環境」を削除し、「学びの環境にあると考えられます」に変更してはどうか。

(各委員)

・「地域学校協働活動をはじめ、地域と連携・協働した学びの環境にあると考えられます」で賛同。

(委員)

・「(3) 多様な学びの機会と自発的な参加意識の醸成」について、「こと」が多用されているため、修正を図りたい。

(各委員)

・文言修正と文章の入れ替えを行い、「子どもたちが自分自身の可能性を広げるには、興味・関心のある複数の選択肢の中から学ぶ内容を選ぶことが肝要です。このためには、個々の子どもの自発的・意欲的な学びを促す内容や仕組みを学校だけではなく、社会教育関係者が工夫していくことが求められます。生涯にわたって学び続ける姿勢の基礎を培い、地域社会の興味・関心の醸成を促すことが期待されます。」に変更してはどうか。

(委員)

※ZOOMコメントに記載

・「子どもたちが自分の可能性を広げられるようにすることが重要です。そのためには、学ぶ内容を自ら選択できるようにしたり、興味・関心のある分野に取り組めるようにしたりするなど、子ども一人一人の自発的で魅力的な学びを支える仕組みを、学校だけでなく、社会教育の場でも工夫していくことが求められます。こうした取組は、生涯にわたって学び続ける姿勢の基礎を育むとともに、地域社会の関心や主体的な関わりを育てることにもつながると考えられます。」

(委員長)

- ・いくつかの文章案ができたので、事務局で整理して活用を。
- ・第3章文頭のフローチャートについて、矢印を一本化したことについて意見はあるか。

(各委員)

- ・意見なし

<第3章 若者の地域参画をつくる社会教育振興のあり方 2 具体的な施策の推進に向けて>

(委員)

・「(6) 小中学校などにおいて海外を含む地域外との交流機会の促進」について、交換留学や海外留学、県内にいる留学生との交流についても付け加えてほしい。

・社会教育をする大人側のアップデートができてないことを最近よく感じる。パワハラにみられるように、大人が若者や子どもたちに指導する、押し付けるような形では、社会全体が育たなくなる。同じ目線でということを経験の大人たちも一緒になって学べる場を創出することが重要。

(委員長)

- ・留学生との交流や海外留学を加える
- ・大人側のアップデートができてない点については、最終章の「おわりに」で、今後の課題として入れている。今期の今後の委員会で検討ができたらと思う。

(委員)

・ユネスコジオパークかJGCを引用して、ジオパークの定義を再度確認した方がいい。

(委員)

・室戸は世界ジオパーク認定で、土佐清水は日本ジオパーク認定の違いがあるため、定義の確認は重要。

(委員長)

- ・集落活動センターの定義についても再度確認を。

(事務局)

- ・再度確認する。

(委員長)

・3章2節の(1)から(7)の全ての冒頭が、「子どもたちの何々のために」で始まっているが、社会教育についての提言であるため、少々違和感がある。大人や保護者など、子ども以外の主体のために、こういう施策の推進も必要ではないかという話があってもいいのではないか。

・2章にも「地域、保護者の役割とは」があるので、子どもたちのためにだけでなく、地域や保護者、大人のためにという言葉から始まる施策もあっていいのでは。

(委員)

- ・(6)、(7)以外は、対象を限定しなくてもいいのではないか。

(委員)

- ・子どもたちのという観点が今までなかったのであれば、統一してもいいのではないか。

(委員)

・(5)の図書は幼い子から大人まで幅広い。本で豊かな心を育んでもらいたいということは、社会教育の一端だと思う。子どもだけでなく、幅広くどの世代、どの人にも、読書活動を通して豊かな心を育むという点は、オーテピアが取り組んでいることとも兼ね合いがあるだろう。「子どもや大人が」でもいいのでは。

(委員)

- ・(4)(8)も幅広いため、子どもに限定しなくていいだろう。
- ・(2)(5)も限定しないことは可能かと思う。

(委員長)

・(4)は、子どもたちがではなく、「子どもたちや大人が広い視野、客観的な視点で地域を見直し」がいいのではないか。

(各委員)

- ・賛同

(委員)

・「子どもたちが」という主語は、若者を指すのか子どもを指すのか、複数解釈されるリスクがあると感じた。

・前回の委員会での委員の意見に、「若者は急には出てこない。幼少期から成長していく時間軸の中で最終的に若者になる」という発言があった。「2 具体的な施策の推進に向けて」と、「(1) 学校教育、幼児教育と地域との連携・協働の深化」の間に追加することで、なぜ「子どもたち」を主語とした提言をするのかにつながるのではないか。

・「(5) 幅広い深い知識を培うため、子どもの読書環境のさらなる整備」の文中を修正し、「そのための読書環境や人材も不可欠です」と「サイクルを生み出すような循環が必要であると考える」に変更してほしい。

<おわりに>

【事務局から説明】

(資料3参照)

(委員長)

・「おわりに」と名簿、全体を通して補足や追加意見等もないようなので、以上で協議は終了とする。

3 閉会 (11:55~12:00)

【生涯学習課長挨拶】